



第95回渋川摂食嚥下研究会レポート

日時：令和7年8月5日（火）午後7時00分～

会場：渋川医療センター 大会議室

講演 「体成分分析装置 InBody について - 栄養管理における活用 -」

講師 渋川医療センター
管理栄養士 林 賢悟 氏

令和6年度の診療報酬改定の栄養関連項目では、GLIM基準を用いることが推奨されています。GLIMによる診断基準の中には、生体電機インピーダンス法（BIA）で測定された骨格筋量指数（SMI）（＝筋肉量）があります。今回の主役である「体成分分析装置 InBody」は、ベッド上でも測定でき、誰が使用しても誤差なく体成分（筋肉量や脂肪量、水分量等）の測定ができる機器です。

良好な栄養状態では、筋肉量が重要です。身長・体重で算出できるBMIは栄養状態の一つの指標になりますが、体重が増えた＝栄養がしっかりとれている、ではないそうです。体重だけでは、筋肉量が増えているのか、体脂肪量が増えているのか評価できず、体重は増えても、実は体脂肪だけが増えて、筋肉量が減っていた・・・BMIは高いのに低栄養・・・なんてこともあり得るとのこと。InBodyでは、測定した数値から浮腫の有無も推測できるため、体の中で何が増えているのか評価できるのです。日頃の食生活や運動量を確認し、さらにInbodyで測定することで転倒リスクや予後も予測できるため、適切な支援へと繋がられるそうです。

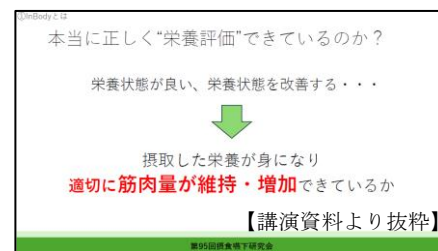
また、株式会社 InBody Japan 小野様より、評価結果の詳しい見方だけでなく、結果から推測できることや、活かせることなど、お話いただきました。診断するツールではありませんが、Inbody がきっかけとなり、狭窄や血栓が見つかった事例もあるそうです。

今回は Inbody 中心の研修会でしたが、筋肉量の評価方法は他にも複数あるとのこと。それぞれのメリット・デメリットを把握し、環境や対象者に合った評価方法で適切に評価することが大切。今回の研修会により、皆様の支援の幅を広げる一助となれば幸いです。



参加者内訳

職種	計
医師	4
歯科医師	5
薬剤師	3
保健師・看護師	3
歯科衛生士	2
ST・OT・PT	6
管理栄養士・栄養士	11
ケアマネ	6
その他	4
合計人数	44



実際に Inbody で測定してみました。
Inbody は、体内にペースメーカー等の機器がある方には禁忌です。

【次回 第96回渋川摂食嚥下研究会の予定】

開催について：10月7日（火）午後7時～／渋川はっとプラザ 4階大会議室

演題：「市町村が実施する介護予防事業 オーラルフレイルの取組について」

講師：渋川市、榛東村、吉岡町 介護予防事業担当者